

標準作型

△印・定植

□印・収穫

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露 地				△	△	—————						

栽培のポイント

ナス科のトマト・ナス・ピーマン・ジャガイモ等は青枯病などの土壌病害が発生しやすいので、連作を避け、ナス科の作付けを3~4年以上空けること。
 風に弱いので、支柱などで枝が折れないように工夫が必要。
 高温性なので、露地栽培の場合はあまり早く定植しないこと。早く定植するときには生育前半をトンネルで栽培する。
 カラーピーマン（パプリカ）は本来の果色に着色するまでに時間がかかるので、雨よけして栽培する必要がある。

品 種 京ゆたか（タキイ） 早生性で果色が濃緑のピーマン。
 ひじり（丸種） 早生性で果色が濃緑のピーマンで果肉厚が京ゆたかより厚め。
 ワンダーベル（タキイ） カラーピーマンの品種で赤色に着色する。

畑の準備 苦土石灰（10kg/a）・堆肥（100kg/a）を1ヶ月前に施しておく。
元 肥 定植の前のうねを作るときに施す（大きなうねほど木が衰えない）。
 （1 a 当たり使用量）

CDU 燐加安 S555 号タマゴ	9 kg	定植前
ようりん	4 kg	

定 植 本葉が10枚程度でた頃に3~4日外気に慣らしてから定植する。
 ※ 株間50~60㎝、うね間120~150㎝ 定植本数の目安：150本/a
 （根が浅く張るので倒れやすいため必ず支柱を立て誘引する）
 地温を上げるためにポリマルチを早めに張り、梅雨明け前に、夏の高温や乾燥から株を守る為にマルチの上に敷きわらを敷く。

誘 引 苗の生長を見越して、ゆるめに支柱に8の字に誘引する。また、風により果実にキズが出来やすいので、防風ネットなどを利用し防風対策を行うと良い。

整 枝 一番花がついたら、下のわき芽は摘んでおき、全体の形を盃状形になるように3本仕立てにし、余分な葉の付け根から出た“わき芽”は早いうちにかきとる。

敷きわら 雑草と乾燥防止のため、土が見えない程度まで敷きわらをしておく。

追 肥 収穫が始まった頃から樹勢をみて定期的に行う（月に2回程度施す）。
 （1 a 当たり使用量）

燐硝安加里 S646 号	2~3 kg	収穫開始頃から
--------------	--------	---------

病虫害防除 白絹病、青枯病にはナス科の中で弱い方なので、連作を避ける。白絹病対策として、1ヶ月間の湛水処理や消石灰の施用（150~250kg/10a）などが有効。
 害虫は年間を通じて、アブラムシ類、アザミウマ類を防除し、高温期はハスモンヨトウやオオタバコガの防除を徹底する。

収 穫 ピーマンは、実が大きくなってきれいな緑色をしてきたらすぐに収穫する。
 長く放置しておくと果皮が赤くなったり黒ずむ。